

つくば市記者会 御中

発信日：令和6年（2024年）11月25日（月）

発信元：つくば市 政策イノベーション部 情報政策課

☐取材依頼 ☒周知依頼 ☐募集告知 ☐その他つくば市がDST EVIDENCE AWARDS 2024
において「大賞」を受賞しました

つくば市、筑波大学及び千葉県山武市の共同研究の成果が、一般社団法人Data for Social Transformation（DST）主催の「DST EVIDENCE AWARDS 2024」エビデンス部門において大賞を受賞しました。

【受賞日】 令和6年11月19日（火）

【共同研究のプロジェクト名】

新規要介護認定を受けた高齢者の疾病パターンの分類と予後の関連
（プロジェクトの概要等は別添をご覧ください。）



画像提供可

（左から、宮田裕章氏、つくば市職員、五十嵐立青つくば市長）

DST EVIDENCE AWARDSについて

DST EVIDENCE AWARDSは今回が初開催で、宮田 裕章氏（慶應義塾大学 医学部 教授）が審査委員長を務めるアワードプログラムには、アクション部門・エビデンス部門・アイデア部門の3つの部門があり41の応募がありました。

エビデンス部門は、医療・介護・福祉等の社会保障領域における課題解決に繋がりうる研究で、社会に実装できる可能性があるものに表彰されるもので、ファイナリストに残った3件の中から大賞を受賞しました。

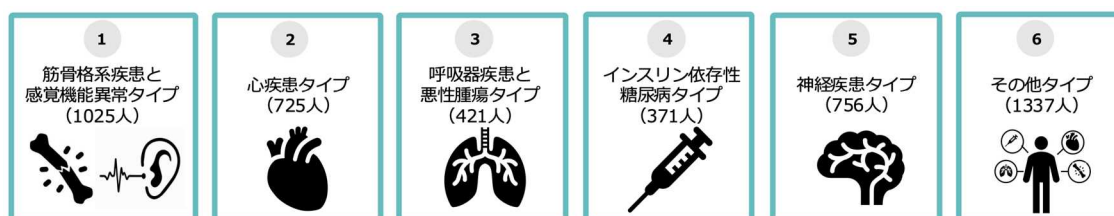
一般社団法人Data for Social Transformation（DST）は、令和4年11月に設立された第三者効果検証機関で、社会保障領域における様々な課題について、病気や介護、貧困などが起きる前「事前領域」で、データを用いてエビデンスを明らかにし、解決を図ることを目的に活動している団体です。つくば市は、当該団体の自治体協議会に設立時（令和5年7月）から参画しています。

【プロジェクトの概要】

昨今の日本では高齢化が進んでおり、医療介護サービスの質と効率の向上が喫緊の課題となっています。一方で、高齢者は複数の病気を抱えていることが多く、その組み合わせも多様な不均一な（heterogenous な）集団であり、ひとくりに捉えて適切な介入方法を検討することは困難です。そこで筑波大学が中心となり、新しく要介護認定を受けた高齢者を対象に、つくば市と千葉県山武市の医療レセプト等のデータを使用し、疾患の組み合わせの分類（「Clinical subtype」）と予後の関連を検討しました。

結果は、6 つの Clinical subtype（①筋骨格系疾患・感覚機能異常タイプ、②心疾患タイプ、③呼吸器疾患・悪性腫瘍タイプ、④インスリン依存性糖尿病タイプ、⑤神経疾患タイプ、⑥その他）が同定され、各タイプごとに死亡と要介護度重度化のリスクが異なることが明らかになりました。

図. Clinical subtype の内訳



【社会実装に向けて】

今回明らかになった結果から、同じニーズと予後を持つグループが明確になり、各サブグループに有効なケアの種類を探索・評価しやすい環境が整いました。これら類型化された clinical subtype を元にケアの有効性が評価されれば、経験則によって提供されてきたケアではなく、エビデンスを元にした個別化ケアの提供に繋げることができる可能性があります。さらに、自治体でサブタイプを自動同定するアプリケーション（パッケージ）の開発も視野にいれることができ、産官学連携事業に繋がる可能性もあります。

また、社会実装の方向性として、介護サービスの利用における共同的な意思決定や介護サービス選択への活用、ケアマネージャの負担の均てん化への応用、自治体で開催する認定審査会での活用、各自治体の地域診断の指標として活用などが考えられます。